

石川縣羽咋郡及鹿島郡佝僂病及骨軟化病調査報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38321

十全會雜誌

第十七卷第一號(第七十二號) 明治四十五年一月二十五日發行

原稿及實驗

●石川縣羽咋郡及鹿島郡佝僂病及骨軟化病調查報告

宮田篤郎
鬼頭英

序論

富山縣氷見郡及石川縣羽咋郡ニ於ケル佝僂病及骨軟化病ハ明治三十九年五月以來在東京田代、木下、三輪、林、中原ノ諸博士、在大阪緒方、木村兩博士、在金澤下平學士、村上、上田、岡本、其他ノ諸氏ニヨリ調査セラレ其後新潟縣西頸城郡及佐渡國等ニハ地方性ニ多數ノ同病者ノ存在スルコト明カトナリ、尙ホ本邦ニ於テハ南ハ台灣ヨリ北ハ北海道ノ諸地方ニ或ハ地方性ニ、或ハ散在性ニ同病者ノ存在スルヲ報告アリ、嘗テ本邦ニ於テ或ハ絶無、或ハ稀有ト信ゼラレタル同病者ハ今ヤ多數ニ存スルヲ闡明セラレタリ、特ニ岡本其他四氏ノ石川縣羽咋郡ニ於ケル同病患者調査報告ハ明治三十九年十月發行ノ十全會雜誌第四十二號ニ掲載セラレ、余等今更蛇足ヲ之

第一章 地理

ニ加フルノ要ナキモノ、如シ、然ルニ全部患者中十三名ハ石川縣金澤病院ニ收容セラレ余等親シク之ガ診療ニ從事シ其多數ハ全治若クハ輕快シテ退院セリ、故ニ此等ノ患者ノ目下ノ狀態如何、岡本氏等ノ調査當時ト今日トノ同地方ニ於ケル患者ノ狀態ノ差異如何、同氏等ノ調査後ニ發生セル新患者ノ有無如何及同氏等ノ調査ニ漏レタル村落ニ於ケル患者ノ調査、等ヲナスコトハ多少ノ興味アルコト、信セリ、會マ本年八月余等二人石川縣ヨリ羽咋及鹿島兩郡ノ同患者調査ヲ命セラレ同月二十三日ヨリ同二十八日マデ兩郡ニ出張シ踏査ヲ遂ゲ其結果ヲ左ニ報告セントス

余等ノ調査セル區域ハ石川縣羽咋郡中邑知村、同北邑知村、同北志雄村、同南志雄村及鹿島郡高階村ニシテ主トシテ兩郡警察署ノ調査表ニ據ル北邑知村ノ地勢ハ明治廿九年十月發行十全會雜誌第四十二號記載ノ岡本外四氏ノ報告ニアルヲ以テ省略ス但シ同氏等踏査當時ト今日トノ大ナル相違ハ同村飯山ヨリ福水神子ケ原ヲ經テ氷見郡熊無村ニ通スル論田越ハ數年前坦々タル新道開鑿セラレ容易ニ人車ヲ通ズルコトヲ得ルニ至レルコト之ナリ

中邑知村ハ羽咋町ト北邑知村トノ間ニ位シ數波ヨリ七尾ニ通ズル國道筋ニ當ル平地ニ位スル村落ナリ

北及南志雄兩村ハ北邑知村ノ南ニ位シ寶達山其南ニアリ東ハ氷見郡二界シ

山丘起伏シテ殆ンド平地ナク其半腹若クハ豁間ニ散在スル諸部落ヨリ成リ子浦川其豁間ヲ流過ス

鹿島郡高階村ハ同郡長川停車場ヨリ七尾灣ノ沿岸ナル田鶴嶺ニ通ズル沿道ニ位シ丘陵起伏ス

以上五ヶ村中邑知村高階村ニ於ケル患者數ハ僅カニ二名ニ過ギス、故ニ主トシテ北邑知村及南北志雄村ノ患者ニツキテ述ベントス

第二章 生活狀態

北邑知及南邑知及南北志雄村民ノ生活狀態ハ岡本氏外四氏ノ北邑知村ニ於ケル調査ト大差ナキモノト認ムルヲ以テ再記セズ但シ北邑知村ト南北志雄村トノ生活狀態ノ差異ハ大ニ注意ヲ要スルモノト認ムルヲ以テ記述センニ北邑知村ハ佝僂病患者ノ本縣ニ於テ最初ニ且ツ最多數ニ發見セラレタル地方ナルノミナラズ氷見郡ヨリ羽咋停車場ニ通ズル沿道ニ位スルヲ以テ多數ノ醫學者及官吏ノ同村ニ出張若クハ同村ヲ通過スルアリ此等ノ人々ノ注意等ニヨリテ生活狀態ノ著シク改善セラレタル形跡アリ即チ住居ノ周圍ニ鬱蒼タル樹梢ハ多ク切拂ハレ直射日光ノ入ルニ便ニシ勉メテ下水ノ疏通ヲ謀リ加之ハ新道開鑿ノ結果物資ノ供給便利トナリタル爲メハ衛生ニ注意シタルタメ村民ノ魚肉等ヲ攝取スルコトモ著シク増加シタリト云フ北志雄及南志雄村ニ於テハ反之同地方有方者ノ言ニ徴スルモ余等ノ觀察ニヨルモ丁度明治卅九年ノ岡本氏等カ北邑知村ニ於テ觀察シタル生活狀態ヲ今日ニ至ルモ其儘繼續シ居ルモノト認メサルベカラズ

第三章 調查患者

余等ノ調査シタル患者數左ノ如シ

總數五十九名
内 佝僂病 五十名
骨軟化病 九名

宮田篤郎

余ハ右患者中五十名ノ佝僂病患者ニツキ報告セントス右實驗例ハ本論ノ終末ニ表示セリ其症狀ニヨリ佝僂病ナルヲ素ヨリ疑テ容レズト雖モ今此表中ヨリ主要ナル点ヲ摘録シ且ツ少シク卑見ヲ述ベント

一、五十名ノ佝僂病患者ヲ各村男女及年齡ニ分類スレバ左ノ如シ

村名	年齡		羽咋郡		中邑知村		同北邑知村		同北志雄村		同南志雄村		鹿島郡高階村		合計
	性	年	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
		三					一						一		
		四					一		一						
		五													
		六													
		七				三									
		八				二									
		九				二									
		十				四									
		十一				一									
		十二													
		十三													
		十四													
		十五													
		十六													
		十七													
		十八													
		十九													
		二十													
		合計				一		二	二	六	二	四	一		

(年齡ハ凡テ數ヘ年)

二、男女ノ關係ハ

男 十九名 (四〇%弱)

女 三十一名 (六〇%強)

三、初發年齡

家族等ノ本病ヲ發見セル時期ニツキ調査セルニ不明ナルモノ一〇、稍明カナ
ルモノ四〇ナリ即チ

發見年齡	二才	三才	四才	五才	六才	七才	八才	九才	十才	十一才	十二才
患者數	四	六	七	六	二	二	四	四	二	二	一

本病ノ發見セラル、ハ或ハ両親ガ患兒ノ起立歩行ノ普通ヨリモ後レタルニ
ヨリ注意スルアリ、或ハ下肢ノ彎曲等ニヨリテ注意スルアリ、或ハ歩行時
ノ疼痛ニヨリテ注意スルアリ、中ニハ兒童健康診斷ノ際醫ニヨリテ偶然發
見セザレタルモノアリ、以上ノ發見年齡ヲ以テ直チニ本病ノ初發期トナス
コト能ハザルハ勿論ナレドモ、彼ノバキンスキー Patiently ガ尙僂病ハ生
後七ヶ月乃至二十五ヶ月ニ發生スルモノ最モ多ク三歳以上ニハ稀有トシ、
モンチー Monti ガ三歳以後ニハ最稀ニシテ四歳以後ニハ絶無トナシタル
ガ如キ一般歐洲各國ニ見ルモノト異ナリテ、一八六一年ニ始メテガリエー
ル Olier ニヨリテ記載セラレタル晩發性尙僂病ニ屬スベキモノ比較的多數
ヲ占ムルヤ疑ヲ容レズ、加之歐洲ニ於テハ男子ノ方女子ヨリモ多數ナリト
稱セラル、モ本例ニ於テハ七八歳ニ至ル迄ハ男女ノ患者數ニ大差ナキモ年
齡ノ長スルニ從テ男性患者數減少シ女子患者數大多數ヲ占ム以上ノ二事實
ハ本邦他地方ニ於テ諸氏ノ實驗報告セルト同様歐洲ニ於ケル尙僂病ト一致

セザル點ナリ

四、病症ノ程度ヲ男女及居村ニ區別スレバ左ノ如シ

病症 程度	居村				
	中邑知村	北邑知村	北志雄村	南志雄村	高階村
重症	一 女一〇	一 女一〇	二 女一一	一 女一〇	一 女一〇
中等症		三 女二一	四 女三一	三 女二二	
輕症		四 女二二	一 女一〇	二 女一一	
全治若クハ 暑治		二六 女一〇 女一六	一 女一〇		
合計	一	三四	八	六	一

以上ノ中北邑知村南及北志雄村ノ患者ノ病症程度ヲ比較スルニ

北邑知村患者總數三十四名

重症若クハ中等症 四名 (一二%)
輕症 四名 (一二%)
全治若クハ暑治 二十六名 (七六%)

南及北志雄村患者總數十四名
重症若クハ中等症 十名 (七一%)
輕症 三名 (二二%)
全治若クハ暑治 一名 (七%)

ニシテ北邑知村ノ患者ハ大半全治若クハ略治シ、重症若クハ中等症患者ハ
非常ニ少數ナリ、反之南北志雄村ノ患者ハ全數コソ少ナケレ、重症若クハ
中等症ノモノ大多數ヲ占メ、全治若クハ略治ニ赴キタルモノ比較的小ナ

シ、素ヨリ余等ノ調査ハ主トシテ警察署ノ戸口調査表ニヨリテナシタルモノニシテ一々同村民ノ健康診斷ヲナシテ患者ヲ發見シタルモノニアラザルヲ以テ、嘗テ佝僂病ニ罹リ今ヤ全治シ居ルモノヲ漏シタルモノアルヤモ謀リ難シト雖モ、兩地方共ニ羽咋警察署ノ管轄ニ屬シ同一方針ノ下ニ調査セラレタルモノナレバ、前記ノ比較ハ決シテ不當ノモノニアラズト信ズ

元來佝僂病ノ直接原因ニツキテハツワイエル氏 Zweifelノ食糧缺乏説、ハイツマン氏 Heizmannノ血液及組織内ニ酸類ノ鬱積ニ因ストノ説、フリードレーベン氏 Friedlebenノ換氣不良ナル住居ニ在リテハ炭酸瓦斯ノ体内ニ蓄積スルニ因ストノ説、リッテルシヤイン氏 Rittersheimノ遺傳説、バルロー氏 Parrotノ遺傳梅毒説、カツソーキツツ氏 Kassowitzノ呼吸器病説、ストュルツネル氏 Stülznerノ甲狀腺説、オツペンハイム氏 Oppenheimノミヤス説、ハーゲンバツハ氏 Hagenbach シヤガミエー氏 Chammier プルクハルト氏 Barkhardtノ傳染病説、其他諸説アリ其他本邦ニ於テハ田代博士ノ傳染病説及木村(孝藏)博士ノ甲狀腺説アリ(共ニ「ヒポテーゼ」ニ過ギズ)ト雖モ未ダ一定ノ原因ト認ムベキモノ發見セラレズ、然レドモ總テ不衛生ナル生活狀態ハ佝僂病ヲ誘起シ此狀態ヲ改良スルトキハ同病ヲ輕快若クハ全治セシメ得ルコト殆ト疑ナ容レズ、即チ此佝僂病ノ誘因ト見做サル、モノハ粗惡ナル食物、運動ノ不足、濕氣多キ住居、日光射入ノ不足、空氣中ニ濕度多キ地方(ハーゲンバツハ氏 Hagenbachノ説ニヨレバ空中ノ濕度八〇%以上ノ土地ニ發生スト羽咋郡ニ最近キ測候所ナル伏木測候所ニ於ケル平均濕度ハ八二%ニシテ本邦中濕度非常ニ多キ地方ナリト云フ)等之ナリ

然ルニ已ニ第一章第二章ニ記載スル如ク北邑知村ニ於テハ明治三十九年以來上記ノ佝僂病ノ誘因ト認メラル、不衛生ナル生活狀態ハ不十分ナカラ改良セラレタルノ形跡アリ、加之同村患者ノ内十三名ハ金澤病院ニ於テ治療セラレ其他ノ患者モ居村ニ於テ治療セラレ就中貧困ナルモノハ篤志ノ醫師ニヨリテ救療セラレタルモノモ少カラズト聞ク、反之南北志雄村ニ於テハ生活狀態ノ改良ノ跡ナク且ツ加療セラレタルモノモ甚ダ少數ナルノミナラズ、特ニ注意ス可キ事實ハ佝僂病ハ實ニ一種ノ業病ニシテ到底治癒セザルモノトノ考ヨリ之レヲ放棄シ置クモノ少ナカラサルモノ、如シ、以上記スルトコロノモノハ實ニ兩地方ニ於ケル病症程度ノ差異ヲ來セル主要ナル原因ト認メラル

五、本病ノ豫後及轉歸上ノ見解

明治三十九年ノ岡本氏等ノ報告、其當時余等ガ北邑知村ノ佝僂病患者十三名ヲ診療シタル時ノ觀察及今回ノ所見トチ比較スルニ本病ハ衛生ニ注意シ且ツ適當ナル醫治ヲ加フルトキハ極メテ良好ク治癒ニ赴ク疾患ナルカ如シ、即チ骨ノ柔軟モ硬固トナリ身体ニ於ケル種々ノ變形モ手術的及矯正的治療ヲ加ヘサルモ殆ンド全ク治癒シ歩行操作等普通人ト異ナルコトナキニ至ルモノ多シ、身体特ニ骨變形ノ自然治癒ヲ望ミ得ル年齡ニ付テハフグイト氏 Fugit 伯林大學外來患者治療所ニ於ケル經驗ニヨレバ患兒ノ年齡六才ニ至ルマテハ其望ミアリ、尙ホ十歳以内ナレバ稀ニ其望ミアリトナス、京都大學ノ松岡博士ハ「骨畸形ハ二歳ヨリ四歳ノ間ニ於テ治癒スルモノ多ケレドモ八歳ノ小兒ニ於テ尙ホ下肢骨ノX脚ヲ存シタルヲ目撃セリ」ト稱ス、余等ガ今回ノ所見ニ於テハ北邑知村ニ於ケル十九歳ノ女子(北山〇〇)及十

八歳ノ女子(高澤○○)ノ下肢骨ノ畸形ノ自然治癒シ居ルヲ見レバ十歳以上ニ於テモ骨變形ノ自然治癒ノ望ミナキモノニアラザルガ如シ、恐ラク歐洲ニ於ケル佝僂病ト本邦ニ於ケル佝僂病トノ發生時期ニ早晚アルカ故ニ此ノ如ク差異ヲ來タスモノナラント推察セラル

次ニ一旦佝僂病ニ罹リ全治若ハ暑治シタルモノト認メラル、二十四名ノ男女ノ身長及頭圍ヲ測定シ之ヲ三輪博士ノ年齡測定標準表ト比較スルニ實ニ左ノ如シ

全治若ハ暑治シタル男子			三輪博士ノ年齡測定標準表			兩表ノ差	
年	齡	身長 (仙達)	身長	頭圍	身長ノ差	頭圍ノ差	
六年八月月	98	53	106.4	50.4	-8.4	+2.6	
同	99	50.5	"	"	-7.4	+0.1	
六年十一月月	104	50	"	"	-2.4	-0.4	
七年	102.5	52	"	"	-3.9	+1.6	
七年九月月	104	49	111.8	50.6	-7.4	-1.6	
七年十月月	108	50	"	"	-3.4	-0.6	
八年八月月	105	50.5	115.6	50.8	-10.6	-0.3	
十年七月月	113	52.5	123.1	51.2	-10.1	+1.3	

全治若ハ暑治シタル女子			三輪博士ノ年齡測定標準表			兩表ノ差	
年	齡	身長 (仙達)	身長	頭圍	身長ノ差	頭圍ノ差	
六年八月月	98	52.5	105.4	49.4	-7.4	+3.1	
七年十一月月	103	50	109.7	49.5	-6.7	+0.5	

年	身長	頭圍	身長ノ差	頭圍ノ差
八年八月月	116	113.0	50	-2.1
八年九月月	112	"	"	-1.9
同	114	"	"	+0.1
九年五月月	110	49.5	50.5	-8.7
九年六月月	113	118.7	"	+10
九年十一月月	104.5	"	"	+0.5
十一年	121	50	"	-4.2
十一年六月月	116	127.	51.3	-6.0
十二年八月月	115	54	"	-11.0
十五年	123	53.5	52	-17.4
十五年六月月	136	144.4	51.8	-21.4
十五年十月月	131	"	"	-8.4
十六年十月月	138	146.4	54.4	-8.4
十七年十月月	131	145.4	52.9	-14.4

前表示スガ如ク一旦佝僂病ニ罹リタルモノ、身長ハ概シテ標準身長ニ及バズ甚シキハ其差二一四仙達ニ達セルモノアリ此点ハ己ニ「ニニョー氏 Shaw」ガ「Cherlin」バキンスキー氏 Bakinsky 其他歐洲諸家ノ所見ト一致ス、尙ホ佝僂病患者中後年骨ノ過度發育ニ由リテ身長体格偉大トナルコトアリト稱セラル、モ、本例中未ダ之ニ該當スルモノヲ發見セズ、尙ホバキンスキー氏ニ從ヘバ頭部ノ發育モ佝僂病ナラザル小兒ニ比シテ甚シク劣ルト稱セラル、モ、本例ニ於テハ頭圍ハ大略標準頭圍ト一致シ大ナル逕庭ヲ見ズ

明治三十九年ニ岡本氏等診査報告シタル北邑知村ノ佝僂病患者五十三名中

今回ノ診査ニ漏レタルモノ二十三名アリ

内 三名(營地ノ3△島△△一年四ヶ月神子ヶ原ノ5○畑○二年六ヶ月同6○田○吉二年八ヶ月)死亡死因不明

一名(神子ヶ原16道口○○目下十二年)ハ肺結核ニテ死ニ瀕シツ、

アリト云フ

十九名(營地ノ2712131820千石ノ12346神子ヶ原ノ1239

11121819)ハ警察署ノ戸口調査及村吏ノ調査ニヨルニ已ニ全治シ常

人ト異ナルゴトナク多クハ他地方ニ居住セリト云フ

此十九名ヲ前記病症程度表ノ中北邑知村ノ全治若クハ署治患者二十六名ニ加入スルトキハ四十五名ノ多數トナル

六、羽咋郡内本病蔓延ノ狀況

今回診査シタル本郡ノ佝僂病患者ハ總數四十九名ニシテ之ノニ岡本氏等ノ診査ニ係ル患者中現ニ生存スルモノニシテ今回ノ診査ニ漏レタル北邑知村ノ二十名ト外ニ北志雄村字清水原ノ二名ヲ加フルトキハ其數七十一名トナル、其他本郡警察ノ戸口調査等ニヨリ佝僂病患者ト認メラレシモノニシテ今回ノ診査ニ漏レタルモノニ二〇名ヲ算入スレバ其數合計九十一名トナル今之レヲ表示スレバ左ノ如シ

村名	今回診査患者數	今回診査漏患者數
北邑知村	三四	二〇
中邑知村	一	五

北志雄村	八
南志雄村	六
上甘田村	二
北莊村	二
北大海村	三
東増穂村	一
鈍打村	一
羽咋町	一
合計	四九

右表ノ外ニ尙ホ鬼頭學士ニヨリテ骨軟化病ト診セラレタルモノ九名ヲ加算スルトキハ羽咋郡内ノ佝僂病及骨軟化病患者總數ハ一〇〇名トナル其他尙ホ多數ノ調査漏レノ兩病者アルコトヲ想像セザルベカラズ何トナレバ余等ノ今回調査セル患者中ニハ受診患者ニ同伴シ來リシ健康兒ト見做サレタル小兒中ヨリ偶然發見セラレタルモノアリ亦本郡内ノモノニシテ近頃我カ金澤病院外科外來ニ來リ確カニ佝僂病ト診セラレ今回ノ戸口調査ニ漏レ居ルモノアリ(同郡若部村本江盛田某四歳女)勢此ノ如クナルヲ以テ尙ホ細密ナル調査ヲ施コスルキハ患者數ハ著シク増加スルナラント推セララル

附言

鹿島郡ニ於テ警察官ヨリ佝僂病ノ疑似症ト見做サレタルモノ五名ヲ診セシニ内二名ハ佝僂病ニシテ殘餘ノ三名ハ全ク他ノ疾患ナリキ想フニ鹿島郡民ノ生活狀態及多數ニ同患者ヲ發生セル羽咋郡及氷見郡トノ地

勢上ノ關係等ヨリ推察スルニ尙ホ嚴重ナル調査ヲ施コスルキハ多數ノ
同患者ヲ發見スルヲ得ンカ

尙ホ鳳至郡ニ於テ警察官ヨリ尙傷病疑似症トシテ報告セラレタルモノ
十三名ヲ算スレドモ都合上診査ヲ施サハリシ

鬼頭英

本調査中所謂晚發性尙傷病(Thalitis tarda)トモ稱スベキモノ及ビ骨軟化
症ニ配屬スベキモノハ其數僅少ナリト雖此内ニモ嘗テ本病院ヨリノ調査
ニカ、リ且ツ本院ニ収容加療セラレシモノ數名ヲ含有シ幸ヒ這回ノ踏査ニ
ヨリ其治癒成績ヲモ批判スルコトノ便ヲ得タレバ聊カ興味アルベキコト、
ス

往昔(十七世紀ノ中頃)グリッソン氏ガ初メテ尙傷病ヲ報告セシ際ニモ成人
ニ類似ノ骨軟化ノ疾病アルヲ記載セルガ如ク多數ノ尙傷病患者アル所トシ
テ必ズヤ骨軟化症患者ヲ混ゼザルハナキコト泰西ハ勿論本邦ニ於テモ富山
縣氷見郡新瀉縣西頸城郡並ニ佐渡等皆然ラザルナシ本縣ニ於テモ亦極メテ
散在性ニ骨軟化症ノ存在ヲ認ム

尙傷病ト骨軟化症トハ病理解剖上全然區別スベキモノタルハロブスタイン
氏ノ公ニセル所ニシテ今日ト雖モ異議ヲ挾ムベカラズ然レドモ發病本態ガ
兩者全ク相異ナルヤ否ヤニ就テハ論争未ダ決セザル所ニシテウキルヒヨ
、ロキタンズスキー、リツツマン氏等ノ別種説ニ反シ輒近有力ナルハボン
メル氏説ニシテ即チ尙傷病ト骨軟化症トハ全ク同一疾患ナルカ或ハ甚ダ酷
似ノ疾病ナリト云フ、本邦ニ於テモ緒方正清氏ハ全然同一説ヲ稱ヘ其他博

士木下、田代、山極諸氏亦本態同一説ニ左袒スルモノ、如シ故ニ目下兩者
ニ對スル穩當ナル解釋ハ發病本態チ一(?)ニシテ各病機ヲ異ニスル二種ノ
疾患ナルガ如シ

別表掲グル所ノモノ總テ概括的臨床所見ニヨリ分類セリ而シテ輕度ノ骨軟
化症ハ時トシテ一時的治癒ノ外觀ヲ呈スルコトアルモノニシテ表中尙傷病
治癒ト記載サレタルモノニテ實際骨軟化症經過中ノモノナルヤ知ルベカラ
ズ又骨盤變態等須要ナル所見ニ付キテモ大ニ疎漫ノ誹ヲ免レズ唯寸刻ノ調
査克ク其詳微ヲ盡スコト能ハザリシヲ遺憾トス

本分類ニ屬セシメシ人員ハ十五名ニシテ凡ソ生殖期時代ノ婦人ヲ包含ス
(表中△印ヲ付シアルモノ)

地勢及ビ衛生狀態ニ付テハ前陳宮田氏記載ノ如ク本病ノ好發ニ適當ナル
條件ヲ具備ス

病者分布ノ狀況ハ員數餘リニ少數ニシテ論ズルノ價值ナケレドモ凡ソ各
所ニ平等散在セリ

男性患者ニ接スルノ機會ヲ得ズ其有無ノ真相ヲ窺フ能ハズ
年齡ニ付キテハ最若十四年五月最老四十三年八月ニシテ二十年代ノ

モノ最多數ヲ占メ歐洲ニ於ケル最多年代ニ一致ス
遺傳的關係ヲ認メザルモノ十三名、一名ハ其妹ニ他ノ一名ハ其生兒ニ本

病ノ發生ヲ見ル本病以外ノ疾病ニ關シテハ調査ノ暇アラザリキ蓋シ骨軟化
症ニ對シテハ遺傳的關係ヲ云々スルノ必要ヲ認メズトノートナールハ稱

スレドモ時トシテ遺傳ノ觀念ヲ惹起スベキ例ニ遭遇スルコトアリ
妊娠ニ關係ナキモノ十一名關係アルモノ四名ニシテ内三名ハ產褥性骨軟

示セルモノアル外他ニハ外測上著變ヲ認メズ勿論上記患者ニ就キ骨盤内景検査ヲ執行セルモノ一人モアラザリシヲ以テ彼ノ骨軟化症殊有ノ變態ヲ確ムルコト能ハザリシヲ遺憾トス上表中外計測ニ於テハ著變ナキ骨軟化症患者ニテモ必ズヤ内景ニハ多少ノ變態ヲ現出セルコト敢テ言フ俟タザルベシ其他症候中骨軟化症ニ格段ナルハ

●骨痛ニシテ他覺的陽性ナルモノヲ別表ニ舉ゲ即チ最も多數ナルハ骨盤及

部 位	人 員
肋 骨 痛	3
胸 骨 痛	1
肩 胛 骨 痛	1
脊 柱 痛	2
骨 盤 側 痛	3
骨 壓 痛	2
趾 骨 痛	2
薦 骨 痛	1
膝 痛	1

●胸廓ノ骨痛ナリ上下肢ニハ自覺的疼痛ヲ訴フルモノ往々アリシモ他動的疼痛ヲ認メシモノ今回ハ之レアラザリキ即チ本調査ニアリテハ頗ル重症ノ患者ニ接スルノ機アラザリシガ爲メナリ

●診斷ニ就キテハ別表記載ノ如ク骨軟化症七名骨軟化症疑診ノモノ二名尙傷病六名ナリ尙傷病ハ何レモ皆晩發性ニシテ即チ七歳乃至十一歳ニ於テ發生セリ而シテ若年者ニ來ルモノニ比シ其變態著明ナラザルハ治癒シテヨリ長ク年月ヲ經由セシニ因ルナルベシ是點ハ宮田氏記載ノモノト相一致スル所ニシテ歐洲ニ於テ稀有トセラレ、晩發性尙傷病ノ比較的多數ニ本邦ニ存在スルハ大ニ考究スベキ事項ナリトス

●尙傷病ト骨軟化症トノ分類ハフキルオルト氏ノ稱スル如ク唯其年齡ニヨリテノミナスハ正鵠ヲ失スルモノト思考シ(晩發性尙傷病アル以上ハ)一般學

者ノ稱フル所即チ尙傷病ヲ變トシテハ骨端肥大、念珠、頭蓋骨ノ變態、疼痛ノ輕微ニ重キヲ措キ骨軟化症病變トシテハ疼痛強激、骨盤ノ變態ヲ主眼トシテ區別セリ而シテ尙傷病經過後ノ骨軟化症トハ或ハ兩者ノ移行型トモ云フベキモノニシテ現時後者ノ病變顯著ナルニヨリ診定セリ

以上述べブルガ如ク本分類ニ於テハ極メテ少數ノ患者ニヨリ作成セシヲ以テ統計諸表極メテ價値少ナキモノナレドモ本縣下ニ骨軟化症ノ存在ハ明カニ認ムル所然カモ本調査以外尙少數ノ該患者ノ存在ヲ信ジテ疑ハザルモノナリ近時鹿島郡ヨリ我婦人科教室ニ收容セシ本調査以外ノ非產褥性骨軟化症ノ一患者ノ言ニ徴スルモ尙全所附近類似ノ罹病者アルコト且ツ鳳至郡并ニ寶達山麓ニ又本病ノ存在アリト云フ恐ラク眞ナラン

去ル三十九年中岡本氏等ノ調査ニヨリ本院ニ收容加療セシ患者ニテ今回再調査ヲ行ヒシモノ、中本分類ニ屬スルモノノ廣島、中山、北山、谷内ノ四名アリ當時主トシテ藥餌營養療法ニ依リシモノニシテ現時全治ノモノ二名、輕快一名未治一名ナリ(詳細ハ別表參照)

●附記 骨軟化症療法ニ就テハ未ダ確說ナシ然レドモ一般ニ產褥性ノモノニ對シテハフエーソング氏ノ卵巢剔除術非產褥性ノモノニ對シテハ藥餌營養療法專ラ實用セラル、ガ如シ而シテ藥餌トシテホツシ氏ノ創意ニカ、ル「アドレナリン」療法專ラ効ヲ奏シ其他近時「ピツキワリン」注射療法ヲ報告セルモノアリ我婦人科教室ニ於テ收容セル四名ノ骨軟化症患者ニ對シテハ悉皆非產褥性ノモノニシテ且ツ未ダ若年ノモノニモアレバ直チニ「カストラチオン」ヲ敢テスルニ忍ビズ「アドレナリン」療法ヲ執行セルニ多クハ「カストラチオン」ニ於ケルヨリハ疼痛治癒ハ甚ダ緩慢ナリトハ

雖に効果大ニ見ルベキモノト又中毒症ヲ惹起セルマデ持續セルニモ拘ラズ疼痛全ク消退セザルモノトアリ尙長日月ノ經過ヲ監視セザレバ明言シ能ハザル所ナリトハ雖に何レノ療法ニモ尙研究ノ餘地ヲ殘スハ勿論ニシテ殊ニ藥餌療法ニ於テ大ニ其然ルヲ感ゼズンバアラズ上記成績ニ就テハ後日ナ期シ報ズル所アルベシ

結 論

一、石川縣羽咋郡ニ於ケル佝僂病ハ本邦他地方ニ於ケルモノト一般比較的晚發ノモノ多シ而シテ男子ト女子トノ比ハ七八歳ニ至ルマデハ其數大差ナシト雖モ其以上ニ於テハ女子患者數著シク増加ス

二、病症程度ハ北邑知村ニ於ケルモノハ輕症若クハ全治ノモノ多ク南北志雄村ニ於テハ重症及中等症ノモノ多數ヲ占ム此兩地方ノ差異ハ生活狀態ノ改良及治療ヲ施コシタルト否トニヨリテ生ジタルモノナラン即チ本病ハ生活狀態ノ改良及醫治ニヨリ比較的治癒シ易キ疾病ト認ム

三、佝僂病患者ノ骨變形ハ十歳以上ニ於テモ自然ニ消失シ得ルモノアリ此事實ハ本邦ニ於ケル佝僂病ト歐洲ニ於ケルモノト異ナリテ晚發性ノモノ比較的多數ヲ占ムル故ナラン

四、一旦佝僂病ニ罹リタルモノハ普通人ニトシテ身長ノ著シキ減少ヲ認ム

頭圍ハ普通人ト大差ナシ

五、羽咋郡内ノ佝僂病及骨軟化病患者總數ハ今回ノ調査明治三十九年岡本氏等ノ調査及警察署ノ戸口調査ニ據ルニ合計百名ヲ算スルモ精細ニ調査スルトキハ尙ホ著シキ多數ニ上ルナラント想像セララル

終リニ臨ンテ此調査ニ便宜ヲ與ヘラレタル石川縣衛生課、羽咋警察署、七尾警察署、羽咋郡北邑知村同北及南志雄村役場及縣會議員鈴木秀英、北邑知村醫師白井巽同白井濱同村菅池區長北山次吉諸氏并ニ余等ト行ナ同フシ上記ノ診査ニ多大ノ幫助ヲ與ヘラレタル金澤醫學專門學校醫學科第四年生徒高橋邦二郎岡田申吉兩氏ニ謝意ヲ表ス

一、年齡ハ滿年月ニ換算セリ

一、生年月ハ戶籍簿ニ據レリ故ニ年齡欄記入年月ハ卅九年ノ調査ニ係ル患者ト雖モ一致セザルヲ免レズ

一、卅九年調査當時ノ記錄ハ其大要ヲ經過欄内ニ摘錄シ現狀ト比較セシム但數字ニ涉ルモノハ一切記載ヲ略セリ

一、姓名ノ傍ニ〇標チ付セルハ何レモ卅九年ノ調査ニモ記載アル患者ナリ

(1) 1
(2) 字中川

[illegible]

第二表
羽咋郡北邑知村患者

(21)	(1)
—	—
(35)	(2)
字菅池	字福水
(36)	(3)
—	—
(37)	(20)
字千石	字神子ヶ原

1 山陰シ〇エ	同胎九 人妹九 六人ア ヤノヘ ヶ月六 月ケ六	歩行起立誕 生日前 生来弱 夜啼アリ 性質幼稚 誕生前ヨリ 下痢
三才 ノ三 ノ三	初メ脚痛次テ歩行 不能トナル (三九)年記載ニハ 鳩胸、上肢下胫骨 端膨大著明、O脚、 扁平足、腫脹著明、 腹部緊滿等)醫藥 ヲ用ヒ衛生ニ注意 セリト	營養中等 貧血少有 一三
輕鳩脚	殆ノ 下正	
病偻	全治	

[illegible]

10 川口○之	9 水上○雪	8 水上○信	7 水上○次	6 寺西ア○ノ
月ヶ八年六	月ヶ八年八	月ヶ一十年六	月ヶ七年十	、月ヶ一年五十
人人同胞 死内胞五七	人同胞 健胞四	病人(外)同胞六 リニ同生起立歩行誕生廿九	病人(久)同胞六 リニ同入クつぶらニ置ケ母年九	人健同胞三 誕生頃
種痘、麻疹 經過	種痘、麻疹 三種過ス	見發	見發	生來健齒、起立七才
	三才	方下垂、脚、下腿前方(二九九年記載、)	胸角、腰骨、膨隆、大齒、膨大、(脚)	痛現今坂チ下ルニ疼
常食慾	常便通	常食思	常排尿管	常食思
榮養中等一〇五	榮養中等一〇五	榮養中等一〇四	榮養良	榮養良
頭圍五〇 五仙	頭圍五〇 五仙	頭圍五〇 五仙	形常 頭圍五二 五仙	一三六 頭圍五二 五仙
胸圍六一 五仙	念珠アリ 胸圍六二 五仙	輕度帶溝 胸圍五九 五仙	念珠ナシ 胸圍六三 五仙	大腺耳兩 肥下胸圍 七六、五
正	正	正	正	正
				計測 前棘三仙 轉云三仙 外斜三仙 I斜三仙 II斜三仙 周圍七仙
	肥腿脚、 厚骨内、 髌大	厚髌大 腿骨内	輕○脚	足輕度脚、 扁平、 X脚、 内髌、 兩髌、 大厚骨
				シ壓痛節兩歩懸歩 痛ア部膝行時常 ナリ鈍關
治癒	病傷	治癒	治癒	化骨過病傷 症軟後經變

15	14	13	12	11	號番
小坂ま○云	飯向○よ	谷日み○る	飯向や○の	茶畑○三	姓 名
月ヶ二年二	月ヶ六年一十	月ヶ一十年七	月ヶ九年八	月ヶ十年七	齡年
人同胞三	人同胞六	人同胞六	人同胞七	人同胞五	血 族
歩立三麻種 シ三十疹痘 僅日前施 カ前經 ニ起過 二才	發充生 病分頃 前壯母 健乳 ノ春	罹母齒 ル乳生 僻充後 アリ分 ニ生	經種 過痘 、 麻 疹	ヲ誕經種 シ生過痘 テ后久、 歩歩疹 行シ	狀發 病 況前
		見年卅 發九		見年卅 發九	時發 期病
	療金四輕下右咳初 セル澤肢脚二二 ル病骨胸頭大 モ院連大胸有 ノニ膨角ノ節 収大珠角屈 容跡、ヤ、曲 加	テ驚端輕右三 爾歩ヤ度前九 知大、突連年 ス、隆、少記 ス、輕、シ 腹、四、ガ 腫、肢、突 常、骨、隆 排、偶、	可食 良思	少內下連三 シ方腿膝九 シ骨下膝年 動曲大痕記 搖、端蓋載 歩、骨外、 行、傷、 時、カ、 常、行、 便、行、 通、時、 長、 食、 思、	經 過
常排 尿	常排 尿	常排 尿	可食 良思	常排 尿	其 他
三行 貧血	便通 營養 不良	便通 營養 中等	皮膚 少乾	便通 營養 中等	外 景
六五 頭化リ 五仙關骨 八通常	頭頭後頭 五仙關骨 八通常	頭頭後頭 五仙關骨 八通常	頭頭後頭 五仙關骨 八通常	頭頭後頭 五仙關骨 八通常	身 長
					頭 蓋
					牙及 齒面
胸圍 四三仙	念珠 痕跡	念珠 痕跡	胸圍 五七仙	胸圍 五九仙	胸 廓
	正	正	正	正	脊 柱
					骨 盤
ナ厚骨 ラ端 ズ肥	厚共端 稍兩骨 肥側下	輕度 X脚	輕度 O脚	輕度 O脚	上 肢
發育 不良	厚少內 シ外骨 ク下 肥共端	輕度 X脚	輕度 O脚	輕度 O脚	下 肢
能歩 行不					態起 坐狀 及
	膜稍 皺	觸知 腫		鼓腹	所 見
病尙 重 癩症	暑癒 病尙 癩	略治 病尙 癩	全治 病尙 癩	暑癒 病尙 癩	診 斷

19 豐見は○点 月ケ二年七 ル症骨兒母 ニ軟化胎ハ患 罹化生ハ患 行三才頃ハ患 得才頃ハ患 タリ	18 窪田△ ○き 月ケ十年五十二 ニ尙豐一患人同 罹病見兒者死内胞 ル病一ノ二七 三授通嬌十分等正ノ月起種生 月乳常分オ晩一順ノ月經過痘來 迄三オノ時回二量初十五歩麻健 ノ	17 出口○二 年八 人人同胞 死内胞一四	16 谷内△ ○き 月ケ六年五十 シ同胞ナ 生來健
四才 シ得ズ、上 行年ヨリ些カニ歩 シ得ト	初メ全肢ニ疼痛アリ 今運動時刺痛 常便秘 常便通 常食思 營養不良 大約一四	五才 ノ秋	七才 ノ頃 初來月經順正 輕脚十五才ノ三月 順正、量中等
八七 頭厚各頂前 四圓結後頭、頭 七仙節肥頭、頭 欠門上下 損齒上下 胸シ、右肩著鎖 四圓、壓平ヨリ骨明 七仙、セラ稍骨彎曲 側輕前腰 鍛左彎推 前傾	計側念胸鳩 測壓珠骨胸 七五、ア、ナ直肥 仙アリシ大 ア壓變右胸 痛側推 外轉前計趾壓 結棘測骨痛 一六二二八最 〇二八アリ	七二 頭平后后形 圍四突出頭大 八部扁節扁 未成欠四門上 發齒損本窗下 胸、胸、ナ、念 五圍、ナ、珠、著 二仙、ズ、明 正	一三六 外轉前計 結棘測 一八九五三
厚下機左、右、 端尺骨、扁、X 肥腿、大、脚著 大骨、大、足明 内骨、大、明 髌下、骨、驚 明、步、著 跛、腹、輕 病、向、症 優、症	扁輕、X、脚 平、足 ヨ、支、起、座、ハ ル、持、ニ、下、肺 泡、等、中、葉、左 音、水、骨、軟 化、症	跛行 跛腹 中、等 病、向、等	平少內左、右、方、左 足シ、髌、髌、ハ、ニ、大 骨、大、腿、輕、腿、大 扁、厚、骨、度、曲、外

23	22	21	20	號番
◎ 田村は○い	高山○二	◎ 廣島○之	△ 高澤○せ	姓 名
月々九年八	年 七	月々八年六	月々十年六十	齡年
人死同胞一四	人死同胞三	人死同胞六		血 族
リセルコトア キ十日許下病ノ メ二オノ頃九三 ス麻疹ヲ種痘及 ノ歩時種痘及オ		七歩種生 日行痘瘰健 目誕生麻疹	母三歩生シ第九 乳ケ行齒テ九 多シ月誕生小月 シ後頃生頃ニ	狀發 病 況前
月ノ三才		發見 九 三 見 年 十	頃オノ 十	時發 期病
ク部膨胸ニル初 後隆隆骨至四メ 彎及大體骨行 下連球幅ノ歩 部通球廣ヲ行 胸推アリ上能 推少方トナ シシ方ニ		彎膨シ膨膨骨下 曲大及腰及胸骨 等下大推後念突 等下大推後念突 等下大推後念突	輕右側輕減初 脚少大體體退 平シ大體體現 足彎骨骨年 方彎骨骨年 曲彎骨骨年	經 過
便通 輕度貧血	常食思 貧血無	常食思 貧血少有	常食思 營養中等	其 他
二 二四	二、〇五	九 九	一三八	外 景
頸周横前計大前形 腺腺圍徑後測頭稍 腫五三三八結大 大三三節節	頸周横前計大前形 腺腺圍徑後測頭稍 腫五三三八結大 大三三節節	頸周横前計大前形 腺腺圍徑後測頭稍 腫五三三八結大 大三三節節	頭圍 五 一仙	頭 蓋
胸圍 六 一仙	計膨骨肋左 測隆付軟III 五四、五着骨VI	胸圍 五 一仙	胸圍 七 四仙	牙及顏 齒面
	正			胸 廓
				脊 柱
				骨 盤
				上 肢
輕扁平足	輕X脚	曲端下體大輕 內方骨骨腿X 變下大骨脚	扁平足 輕X脚	下 肢
腹稍鼓				起坐狀及 所見臟
暑瘧 病傷	治癒 病傷	略治 病傷	暑瘧 病傷	診 斷

27 廣島ふ○の	26 北山○友	25 北山み○い	24 北山○英	
月ヶ八年二十	月ヶ九年七	年五十	月ヶ三年四	
人同胞六 死内三 歩痘麻疹 行誕生過	人同胞七 過痘麻疹 生來健、種 歩行生齒 頃誕生頃	生來健	生來健 ヨリ三十日 弱クナ程前 モセル發今 ノル見回	
	三十八年醫師ニヨ リ發見セラ ル(二九年記 載)下頸狀突 起少シ常食 思長營養稍 不貧血有	初メ左膝部ニ疼痛 アリ(二九年記 載)胸廓前面 少突隆四 肢骨端輕少 X脚今疼痛全 クナシ常便 通常食思營養 長		肩胛下隅少シク 隆四肢骨端肥厚 度扁平足、鰻歩、懸 垂腹、神腫臍知等)
尋常便通常食思 常尿通貧血有	尋常便通常食思 常尿通貧血有	尋常便通常食思 常尿通貧血有	不便通不食思 整振振貧血有 皮膚乾燥	
一二五頭圍 五三、五	一〇四頭圍 四九仙	一二三頭圍 五四仙	九一 頭圍 四九、五	
胸圍 六四、五 正	胸圍 六〇仙 正	胸圍 七一仙 正 常	胸圍 五三仙	
端尺骨下 肥厚方ニ腿 厚大腓内體 曲外	輕X脚			
治癒病傷 佝僂	治癒病傷 佝僂	治癒病傷 佝僂	少シク 跛行 輕度 病傷佝僂	

[illegible]

32 北山 △ ◎ ○ つ	31 北山 ◎ ○ ○ あ	30 中山 △ ◎ ○ い
月ヶ十年七十	月ヶ八年二十	月ヶ一十年五十
權全つ妹人同 レ病(や)胞二	病テ人々同 タ仰(へ)姊胞 リニ嘗み二	人同 健胞 五
トヲ落吐分月誕過種生 アリ起シ處下幼母后歩瘰瘰 リニ難類時乳四行疹弱 コ聽壓々々充ケハ經	期母ヲ壓三月歩過種生 迄乳來腹ケニ行瘰瘰 ハタ痛月後ハ瘰瘰 歩セ下幼ル疹弱 行リ病時誕生 見テヨ醫ノ八頃才	誕過瘰瘰生 生シ瘰瘰來 頃歩疹疹健 行チ疹疹 ハ經種
沃體狀澤季狀初 形格ニ全病快ニシメ脚 角ヤ、治院ス増シセモ痛 張テ、退院ニ四タモアリ 大ナリ、現容ニ夏季セリ、 貧血、今異セテ、冬變、 未續、順七、月常、後食 婚、三、月經、便思、 量多、初、十五、 日、正、才、 輕度貧血	リ兩加腫腫大珠下體 アリ側フ澤病等淋、隆、格 ト歩モ本病等、淋、腰、小 行關節、院ニ、巴、推、大 行不、年、四、脇、形、觀 十分、春、十、胸、形、骨 痛、ニ、容、年、及、稍、鵠、 ナ、再、治、年、足、端、胸、 痛、セ、テ、金、腺、中、端、起、 通、排、便、減、食、 常、尿、通、慾、 貧血有 榮養不良	大、突連狀下頸シ金後初 、脚、起突頸大、加、ア、關メ 、肩、珠、起頸、病、行、節、 、平、カ、前、現、院、時、二、 、足、ニ、膊、今、ニ、疾、 等、肢、骨、骨、疼、収、 、端、隆、基、痛、容、 、影、狀、強、ナ、治、 ケ現一、中、正、月、才、月、通、便、常、食 、今、等、不、初、三、五、經、常、思 、妊、最、シ、 、娠、終、テ、 七、月、年、量、 貧血ナシ 榮養良
二三	一二	一二
頭形中等 頭圍五五仙	前頭結節 大頭圍五二仙	頭圍五五仙
鳩胸 鎖骨彎曲 稍明 胸圍七八仙	鳩胸 鎖骨彎曲 著明 胸圍六二仙	乳房懸垂 乳色稍強 著明 乳色稍強 初乳排出 正 胸圍七八仙
前棘一二、五 轉棘二二、五 外結一五、八	左胸側推	計測 前棘二二 轉棘二四、五 外結一七、五
骨端肥 厚不明	橈骨下 著明膨大	輕度X脚
輕X脚	高度X脚 扁平足	
常	驚步	
治癒	中症 病向等	妊過病向 娠後經優

35	34	33		號番
平井○吉	北原榮○郎	北原は○い		姓 名
月ヶ八年八	(年へ數)年四	月ヶ八年六		齡年
セリ振食不ク下灣オ兄セシ四人人同 リテト思能歩行曲リノハルテ才死内胞 ト死ナ不	リ耀全つ人人同 コト病い姉胞 アルニは一三	同太郎(榮 同胞三 同胞三		血 族
食母年五歩カテ喜出麻種 乳間月行リテ産疹瘡瘡 傍乳リヨ三腸大時疹瘡 雜一オシ骨軟頭經回、	二歩起過種生 ヶ月行立癒瘡來 月誕生麻健 後生前經	母作過種生 乳期歩瘡來 充通步瘡健 分常行瘡全 發發經		狀發 病 況前
ノ二 時オ	發今 見回	廿九 年九 月九		時期發 期病
レ肝輕鳩狀頭 易些管度胸突形 シカニ支加胸起大 硬ニ答脚四骨弓ニ 、脚襠骨膨シテ 臍、氣步膨下シ 觸、氣步膨下シ		下(三 腹骨九 部年 著方記 明方載 ノニ 脚脚 ニ脚 異脚 常脚 チ脚	大觀 髖骨弓 角膨大 強、下 胸骨方 狀ニ近 ク胸骨 挺出、 肋骨強 端膨大 、膝關 脚、X節ハ 扁平、 足、頸 、頸腺 、肘腺 腫大等	經 過
通排便 常尿通	常排便 尿通	通排便 常尿通		其 他
榮養中等	食思 充進 榮養中等 貧血有	食思 榮養良		外 景
一〇五	八〇	九八		身長
頭圍 五〇、五	頭圍 五一仙	頭圍 五二仙	頭前 附大 節後 結節 後	頭 蓋
				牙及齒 面
胸圍 五八仙		胸圍 五四、五	輕度鳩 胸	胸 廓
正	正	正		脊 柱
				骨 盤
厚骨端肥 ナシ	端鳩 膨大 下脚	膨端度 大內骨 髌下	端鳩 膨大 下	上 肢
	鷲步			下 肢
略 治	病 徇 優 症	暑 癰 病 徇 優 症		起坐及 步行狀 所見 臟 診 斷

第三表

羽昨郡北志雄村患者

- (1) (4) 字見砂村 (5) (7) 字所司原村
(8) 字清水原村 (9) 字石坂村 (10) 字向瀬村

37 橋本 ○る	36 谷内 △○ ○る
年一十	月々七年五十二
ト樞本人同 云リ病一胞三 フシニ妹三	人人同 死内胞 亡四五
セ下行行行ら四母上前生過痘生 リ腿當ナナニ入迄乳齒ス麻疹チ健、 ハ變既ミレ分充發語生チ種 曲ニ歩シ歩ぶ全期經	ニハ遊健十充爲生狀歩頃經種生 落他戲全四才メ母ナ行ニ過痘健 チ人作シ迄乳病リ當起、麻全 ズノ後業テハ不ノキ變生疹、
頃四才	時才十五
度〇骨膨ヤ膨膨曲骨胸、頭、 氣字中大、大、大、隆、隆、形、 管形部強、尺、上、強、隆、觀、 支チ外X、下、上、屈、骨、大、 加呈ス、脚、骨、伸、鎖、骨、ニ、 答輕曲端隆端骨變、骨、角、 應通排便常食 常尿管通思榮養良	基皮膚蒼白色、筋肉 内ナ歩行不能漸ク屋 得ヒタヘ退院ニ後容行治年 加澤ア病リ夜四續セルコ 三血發病后發汗多シコ略 由チナリ連動ノオニシ性 テ歩ナリ十八才ノ不自 頃歩行來タメリ 生メナ疾リキ 充メ母乳病ノ 十才迄乳病ノ 健全シ 遊戯ニシ 他作シ 落チズ 後業テハ
二二	二一八
頭圍 五 一仙	頭圍 五 五仙
胸圍 六六仙	胸圍 六五、五
正	六二、〇
端機 膨骨下 隆下〇 内方脚 彎下脚 曲端	ナ隆骨明右狀強骨左 ラ著端ナラ變度上上 ズ明膨著曲弓端膊 ア蓋歩シニ右股 リニ行リ攀關 ト疼時閉 痛膝少節 リ持立難辛 テニハ歩シ スヨ支起テ
暑病伺 瘧候僕	化骨過病伺 症軟後經僕

[illegible]

8 坂 尻 〇 作	7 谷 口 千 〇 乃	6 谷 口 〇 の	5 谷 口 〇 げ	
月ヶ八年四	月ヶ三年二十	月ヶ七年八	月ヶ九年八	
女一人 同胞二 一名 種痘ス、 歩行出来	死内二人 同胞三 種痘ス、 歩行出来	死内一人 同胞七 種痘ス、 歩行出来	死内一人 同胞五 種痘ス、 歩行出来	
分難食ス	セナハ通學シ 現時ハ通學	モシ四歳頃 以來麻痺ナキ	ハ腰脚ニ 疼痛アリ	痛月不正、 經時、少量 ナリ、 妊娠胸ナシ
尋尿一便食 常利回日通	尋尿一便食 常利回日通	尋尿一便食 常利回日通	尋尿一便食 常利回日通	
尋常呼吸	尋常呼吸	尋常呼吸	尋常呼吸	
七七	一一〇	九二	一〇七	
五二〇	五二〇	四九五	ナシ	
五〇〇	五〇〇	ナシ	ナシ	
大下 端尺骨	稍端 著明大下	膨骨 殊大ス	肥尺 厚下	スナ ナ形 ナ斗
進蹠縮 反膝 起立	性、進蹠 反膝 起立	肩骨 上端 肥厚	射陰、 膝、 反	、 ナ シ
フ肝著 ル臍明	ナ異 シ狀	ナ異 シ狀	ナ異 シ狀	

10	9	號番
岡田 ○ の	一谷 ○ い	姓 名
月ヶ一年九十	月ヶ六年七	齡年
女男三人 死六人 三人	テ同女男三人 死病二三人 亡ニ	血 族
誕生後ハ過	頃生後二月歩行	狀發 病 況前
月歳十四	發見今回	時發 期病
十四歳ノ時右側膝蓋骨部ヨリ疼痛ヲ發シ其年左側同部ニ及ビ十五歳ノ時腰關節モ疼痛ヲ發シ漸次股關節ニ及ビ初經ナリ、中等量、妊娠ナシ	難ナリ、脚痛アリ、ヨリ冬ニ歩行困ニ症増悪ス	經 過
尋常	尋常	其他
尋常	尋常	外 景
身長	身長	身長
頭蓋	頭蓋	頭蓋
牙及齒面	牙及齒面	牙及齒面
胸廓	胸廓	胸廓
脊柱	脊柱	脊柱
骨盤	骨盤	骨盤
上肢	上肢	上肢
下肢	下肢	下肢
起坐行及	起坐行及	起坐行及
所見	所見	所見
診斷	診斷	診斷

第四表 羽咋郡南志雄村患者

(1) 字散田村
(2) 1(8) 字原村

1	號番
寺島 ○ 次郎	姓 名
月ヶ一年四	齡年
同胞二人	血 族
種痘ス、未發行セズ	狀發 病 況前
發見今回	時發 期病
母乳不十分、生來不十分、歩行スルコトヲ得ズ	經 過
尋常	其他
尋常	外 景
身長	身長
頭蓋	頭蓋
牙及齒面	牙及齒面
胸廓	胸廓
脊柱	脊柱
骨盤	骨盤
上肢	上肢
下肢	下肢
起坐行及	起坐行及
所見	所見
診斷	診斷

6 村本○さ	5 高平ひ○の	4 高平茂○作	3 山田格○郎	2 柴田○作
月ヶ五年二十	月ヶ五年四十	月ヶ六年二十	月ヶ十年八	月ヶ三年八
死内人同 亡二胞六 人過種 ヨリ痘 歩疹 行生ハ 前經健 後三	姉茂存同 利作胞現 ヲ種 ナ痘 經ハ 過疹 ス健 十四	在同 二胞 人現	在同 二胞 人現	人同 胞四
來ハザルニ タ歩行スル リ至リ十 コ歳ニ得 ト出	リ或昨年ヨ (膝躍走)リ 蓋骨部疼痛 鈍痛ア	六歳	五歳 左下腿膝蓋 脛腓下端疼 痛アリ	四歳 疼痛部位ハ 膝蓋骨
尋尿一便食 常利回日通機 尋搏皮膚貧榮 常溫濕無養 呼吸脈中等	尋尿一便食 常利回日通機 尋搏皮膚貧榮 常溫濕無養 呼吸脈中等	尋尿一便食 常利回日通機 尋搏皮膚貧榮 常溫濕無養 呼吸脈中等	尋尿一便食 常利回日通機 尋搏皮膚貧榮 常溫濕無養 呼吸脈中等	尋尿一便食 常利回日通機 尋搏皮膚貧榮 常溫濕無養 呼吸脈中等
一〇二	一三四	一〇九	一〇三	一〇七
五二〇	五四五	五五〇	五一〇	五一〇
ク牧齒下門 欠二輕度ノ 胸鎖骨鳩	等念周 ナ他球七 シ疼痛ナ五 後輕度下 鑑度部推	シ念周 六八七 珠等徑 ナ〇	五五〇	シ等骨鎖周 異肩骨六胸 常脾肋〇鳩 ナ骨肋隆起 正
大下兩 端燒 膨大	シ變狀ナ 異狀ナシ 尋常	肥骨曲度上 厚下端燒 端燒	肩左端右稍 平右內大 足共類脚 ニ大下尋 常	右變ニ上脚 扁曲少部右 平シ側內骨 足ク側骨曲 正
反足方ノ脛 射スニ骨脚 尋扁二櫛下 常扁鏡後兩 平曲部尋 常	ナ異大脾 シ狀腫 傷症 病洵等	ナ異大腹 シ狀部 傷症 病洵等	ナ變 シ狀 病洵輕 傷症	ナ異 シ狀 傷症中 病洵等

(似疑)

2 出村 ○ ル	月ヶ七年十二	同胞八人内死三人ナ種痘、麻疹ニハ健ハ歳八歳ニ歩行尋常	八歳ノ時歩行ニ異状ヲ認ム、其後漸良、食糧榮養不長、便通皮膚濕、リ十年前便所ニ行キ倒レ左大腿骨ノ骨折ヲナセリ	一〇五 形状尋常、異状ナシ、 大サ尋常、 五三、〇 其他異状ナシ	鎖骨ノ彎曲著明、 肩圍徑一八、八、 胸椎後、 胸間距離一四、〇、 側壓ナシ	兩上膊、 肩狀前、 弓狀直、 方ニ彎、 曲、 端肥厚、 骨下、 横骨、 常	兩手ナ、 ニ支ヒ、 テ、 テ、 ス、 ナ	異状、 ナシ、 病、 重、 症、 病、 重、 症、 病、 重、 症
-------------------	--------	----------------------------	---	--	---	---	-------------------------------------	---

漫 録

●鬼頭兩先生能登地方尙僕病調査隨行日記

醫科四年生 岡田 申吉

八月廿三日
昨夜來の雨暗る
午前六時半下宿
出發
午前七時半發金
澤至羽昨
自羽昨經飯山中
川至神子ヶ原
飯山にて餐食中
川にて二名神子
ヶ原にて廿五名
福善寺にて宿泊

廿一日の午前のことなりき、恩師鬼頭先生は能登地方尙僕病調査に従はざるやと仰せられたり、自分は未だ嘗て該病を見たることなければ、こよなき機会と思ひ手の舞ひ足の踏むところを知らざるほど嬉しかりき、先生には恩師宮田先生と御打ち合せをなされ調査は山なれば旅用として空氣枕敷布浴衣など整ふべきと尙廿三日午前七時三十分出發と宣ひき。

廿二日の晩は脚伴飽生蕃のつるが如き網等を食るのに諸處を廻りやがて下宿へ歸れば低氣壓は石垣島にあり東海道北陸と進行し明日は盆を覆すが如き大雨

主人の語るも可笑しかりき夜半善夢に覺醒され篠つくばかりに降りしきり調査第一日は終日雨を友とするかと思ひに堪へざりき。

明くれば廿三日空は元氣に満ちて金澤驛に向へば同行の高橋兄は既に居られ眼は幸福に充ちて輝けり、

己にして羽昨驛に至れば巡查部長殿の御出迎ありて恩師先生も共に歩を進め給へ、道すがら患者の生活狀態、人文、地理、氣候の關係は如何等の念に驅られつゝ中邑知村字中川村に來れば自井國手の御案内にて二人の骨軟化症患者を診察せらる、一人は重症にして四十歳前後なるも十二三の子供の如く脊柱の後彎も甚しく立つこと能はず横臥するのみなり、嘗て或る病院にて「カストラチチン」を施されしものならむに疾病の快復せざるを以て見れば「カストラチチン」も餘り効なきものゝ如く、かく皮切りの場合かゝる重症者あることなれば以來尙重症にして趣味津々たるもの多々あらむとは恩師阿先生及び自分等の思ふ處なりき、出づれば斷雲々ざれ／＼に飛び今にも降らむとす、飯山に至れば若校三十九年かの卒業にして近隣を風靡せらるゝ自井濟氏ありて前記自井國手の令弟たり此處にて中食の饗應を受け後雨を浴びつゝ神子ヶ原福善寺に至る其間鈴木秀英氏の御案内にて北邑知村役場にて調査につき種々の打ち合せありき、福善寺は近郷十四ヶ村に於ける巨剎にして幽邃閑雅盛夏も尙其の暑さを知らず患者の來り診を乞ふもの廿五名（調査日數短時日なる爲め各家ごとに調査するを得ず）中にも